



大 船 山

制限のない修学旅行に行ってきました

校長 細江 幸次

5月8日以降、新型コロナウイルスの位置づけが2類相当から5類感染症となり、それに伴い感染予防対策が大きく緩和されました。過去3年間、一般に行われてきたマスク着用、手指消毒、ソーシャルディスタンスの確保等に加え、学校で行ってきた健康観察カード、黙食、シールドを用いたグループ活動もすべて現在はなくなっています。校内では約半数の上矢作っ子(4年生以下)が、いわゆる「何も規制のない学校生活」が初めての体験となっています。特に3年間のマスク生活は思っていた以上にしっかり定着していたようで、かなり気温が高い日であっても、そのまま過ごす子がほとんどでした。おそらく、家庭でも呼び掛けていただいたのだらうと思いますが、日を追うごとに天気、気温、時間帯、活動場所などに応じてマスクを外して過ごす様子が増えてきています。私自身も公共の交通機関の利用時や通院時はマスク着用をしていますが、しばらくの間はTPO(時、場所、目的)を考え、柔軟に対応していくことを上矢作っ子にも知らせ、身に付けていてほしいと思います。

こんな中、4年ぶりに何の規制もない修学旅行に行ってきました。一部天候の心配がありましたが、旅行自体には大きな影響はなく、全員が揃って「しゅうがくの旅」を終えることができました。ここでいう「しゅうがくの旅」とは以下の通りであり、旅行のしおりで私が6年生に示した内容です。家族旅行、仲のいい仲間と行く旅行との違いはここにあると思います。

① 修学旅行……「学びを修(おさ)める」旅行。歴史学習で

学んだ旧所名跡を実際に自分の目で見ることによって学びをさらに深める機会としてほしい。パソコンもスマホも重機もない時代にどのようにして大勢の人たちが連絡を取り合い、連携を図り、目的の一つにしてあんなにも巨大な建造物を完成させることができたのか。強い目的をもった人の強さや粘り強さに感動してしまう。決して順調に完成までたどり着いたしたわけではなく、どのように困難を乗り越えていったのでしょうか。

② 集学旅行……学級の仲間と一緒に行く旅行です。仲間と協力して快適に過ごすために各々に役割があります。普段と違って寝食まで共に過ごす2日間ですから、その中では普段見ることができない自分や仲間の一面を見つけることができるかもしれません。その意外な一面がある意味その子の「社会性」ともいえるものなのかもしれません。

③ 習学旅行……「習学」とは、「自然とできるようになるまで、何度もくり返し行う学び」をいうそうです。「挨拶や感謝の気持ちを伝えること」がそれに当たるのでしょうか。この旅行ではたくさんの人のお世話になったり、出会ったりします。「一期一会」という言葉があるように、その場に合った振る舞いは成長するに従って大切になってきます。思い出に残る旅行にするためには、気持ちよく行っていくことができる旅行にすることです。

■お知らせ

6月30日(金)3校時、本校体育館にてブックサポーターイベントとして「雅楽教室」を開催します。全校児童が鑑賞しますが、保護者、地域の皆様もぜひご参観していただくようご案内申し上げます。普段なかなか触れることがない箏(こと)、琵琶(びわ)、笙(しょう)等の演奏をお楽しみください。



金閣寺にて



清水寺にて

Topics

■地域めぐり

5月16日(火)に低学年、23日(火)に中学年、24日(水)に高学年が地域めぐりに行ってきました。それぞれの行先は以下の通りです。

*低学年……萬光寺

*中学年……大船神社、弁慶杉、風力発電

*高学年……福寿草自生地、海地区、甌穴、明治用水保全林



低学年 萬光寺



中学年 弁慶杉



高学年 明治用水

いずれの学年も現地にて地域指導者の方に詳しくてわかりやすいお話をしていただきました。上矢作には語り継ぎ、引き継いでいきたい自然、文化史跡がたくさんあります。この地域めぐりがひとつのきっかけとなって、見学した何かに興味・関心をもち、さらに詳しく調べていけるといいなと思います。

■かけっこ教室

5月25日(木)の5、6校時に昨年度に引き続き、青戸慎司氏をお招きして3～6年生対象にかけっこ教室を実施しました。今年度は実際に速く走るためのコツを学ぶ実技指導に加え、目標をもって頑張ることにつ



いて青戸先生の体験を交えた話を伺いました。成功体験の裏側にはそれ以上の失敗体験があり、明確な目標を自分で決めて、それに向かって今何をやらなければならないかを常に考えて生活していくことの大切さを教えていただきました。速く走るコツもほんのちょっとしたことに気をつけるだけでタイムがよくなりそうです。今年の運動会から全校リレーがプログラムに入ってきます。

■上矢作小中学校合同研修会

6月6日(火)、上矢作中学校を会場にして小中合同研修会を行いました。かなり以前から小中連携の大切さが求められています。上矢作のような地区に1校ずつの小中学校においてはさらに重要度が増してきます。上矢作小中学校では随分以前から運動会の合同開催や互いの授業を見合うこと、9年間を通して培いたい力について、子どもたちの実態に即した指導の在り方について小中学校の教職員が研修を進めています。

上矢作っ子の活躍

*第19回恵那市スポーツ少年団軟式野球交流会 高学年の部 優勝 恵那南スポーツ少年団
(上矢作・山岡・明智合同チーム)